



寺子屋、福先生のつぶやき  
**7**  
**自信(自尊心)を育てましょう**

家庭教育支援ラボ 寺子屋「福」主宰 龍福 史朗

子どもたちの豊かな未来のために  
 私たちができること

自分の過去を振り返ってみると、周囲の人たちに認められ、目の前のやるべきことに自信を持って意欲的に取り組んでいた時期ばかりではなく、疎外感と劣等感に苛まれた投げやりで無気力な負の時期もあったことに気がきます。できれば子どもたちの未来は、自信と意欲に満ちた活気あふれる時期だけであって欲しいのですが、現代の子どもを取り巻く環境は、必ずしもそうではありません。彼らは多くの場面で、自信を失い、意欲を削がれています。

例えば学校の給食で、単に食べるスピードが遅いだけの子に対して、休み時間が減るとの迷惑から、クラスメイトの冷たい視線が注がれることがあります。こうした日常の些細な出来事によって、すべてに自信を喪失し、健全な成長を阻害されてしまう子もいるのです。もし、これを目撃した教師が「○○さんは、おいしい給食をじっくり味わって食べる習慣ができてるね。とても良いことですよ」と本気で賞賛したらどうでしょう。事態は一瞬で好転し、被害児童に生きる勇気が生まれます。

このようなことは学校や家庭生活の様々な場面で起こります。状況を察した身近な人物が、適時、適切な賞賛を送ることは、子どもの未来を切り開く原動力になるのです。

『あら探し(否定)』から  
 『宝探し(肯定)』へ

私たちは、どちらかという毎日『あら探し』に終始してしまいがちです。それは、横並び主義、比較主義などの悪しき習慣に起因するものであり、子育てにおいては禁じ手です。すなわち、他との比較を極力避け、子どもたちの個性に基づく絶対的価値を認める。そして発現する多くの個性(宝物)に目を向けるべきなのです。これは以前に「子育ての禁じ手5か条 ③くらべる、④けなす」で取り上げましたが、もし思い当



たる節があれば、今日から子育ての考え方を抜本的に変えましょう。『比べる、否定する』から『個性を認め、肯定する』に改めるのです。

よく言われることですが、「下手を注意するより、上手を褒める」方が教育の効果は、はるかに高くなります。私たち大人であっても、けなされるより褒められた方がはるかに「やる気」が出ますから、基本的な「しつけ」は別として、小さい子であればあるほど、褒めて育てることが「良い子育て」だと思います。

**本気で、子どもを褒め、  
 自信を持たせよう**

自信とは自分の力を自分で認識することを得られるものです。しかし、その前提となるのは、客観的に他者によって自分の持つ力を認められて認識できるものでもあるのです。親や教師や友人など信頼できる身近な人たちによる、**本気でしかも深い愛情に満ちた賞賛や励ましこそが、実は子どもの確固たる自信につながります。**

親や指導者は「子どもの宝探しの職人である！」ことを肝に銘じて、子どもと本気で向き合い、たくさんの宝物を見つけ出してください。『何か一つに自信を持った人は強い!』のです。人材育成の名言「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、褒めてやらねば人は動かじ」は子育ての名言でもあります。

家庭教育支援ラボ  
 寺子屋「福」



宇都宮市 滝の原 1-1-1  
 株式会社ダイワ内

Tel:028-633-4534

<http://kosodateclub753.com>